

大社湾砂浜海域におけるコタマガイ分布調査

由木雄一・勢村 均・飯島真人*

大社湾の砂浜海域（神戸川河口から多伎町久村に至る約10 km）におけるコタマガイの分布状況を明らかにするため、昭和58年6月6～8日、10月4日に調査を行った。

1. 調査方法

潜水調査（スキューバー）： 渚から沖合に50mまで、10m間隔でのワクどり（1m×1m）を、のべ14線（84点）実施した。

ケタ曳調査（貝ケタ）： 水深3m、5mにおいて貝ケタ（0.5×2.4×2.2m、網目合4.6cm）で、のべ4回の操業を実施した。

2. 結果と考察

のべ84点のワクどりと、4点のケタ曳で採集された貝類を表1に示す。また各点におけるコタマガイの採集個体数(個/m²)を図1に示す。これによると、この調査海域（水深0～5m）ではコタマガイが卓越し、量的に他種を圧倒している。コタマガイは主に距岸10～40mに分布し、その中心はほぼ20～30m（水深1～1.5m）と考えられる。各地崎別にみると、大池から久村にかけて、また、神戸川河口の比較的せまい海域に分布の中心がみられ、

その海域からはずれると分布数も漸次減少する。また、コタマガイは3～5cm程度砂に潜っているが、砂紋の形状や砂質等から考えると、波浪の影響が少なくかつ比較的海水の交換が良い所に多量に分布しているようである。一方、直接波浪の影響を受け底質が不安定な所、逆に海水の交換が悪くよどんだ所には、ほとんど分布していなかった。

コタマガイの殻長組成を図2に示す。これによると、最大個体が81.1mm、最小個体が10.5mm（モード35mm）と比較的小さい個体が卓越し、60mm以上の大型個体はわずかに8個体のみであった。現地での聞きとりによると分布の中心は例年大池から板津にかけての海域となって

表1 採集貝類

	種 類	個体数
潜水調査	コタマガイ	174個
	キサゴ	2
	ツメタガイ	1
	キュウシュウナミノコ	1
貝ケタ調査	コタマガイ	1個
	キサゴ	17
	ベンケイガイ	4
	ツメタガイ	2
	アカガイ	1
	ヒナガイ	1
	ヒメバカガイ	1

* 島根県沿岸漁場整備開発協会

いるようであるが、今年度の調査結果では大池から久村にみられ、分布の中心がやや西寄りに形成されていた。また、調査時にはすでにかなりの量が漁獲された後であるため初期の分布量は推定できないが、漁獲開始前の分布量および分布範囲は図1に示したものよりかなり上まわっていたものと想定される。

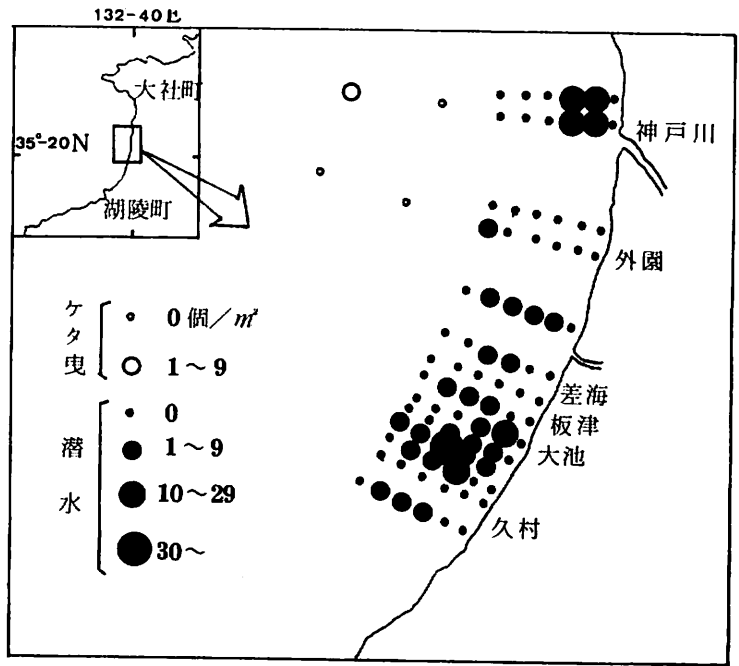


図1 コタマガイの採集個体数

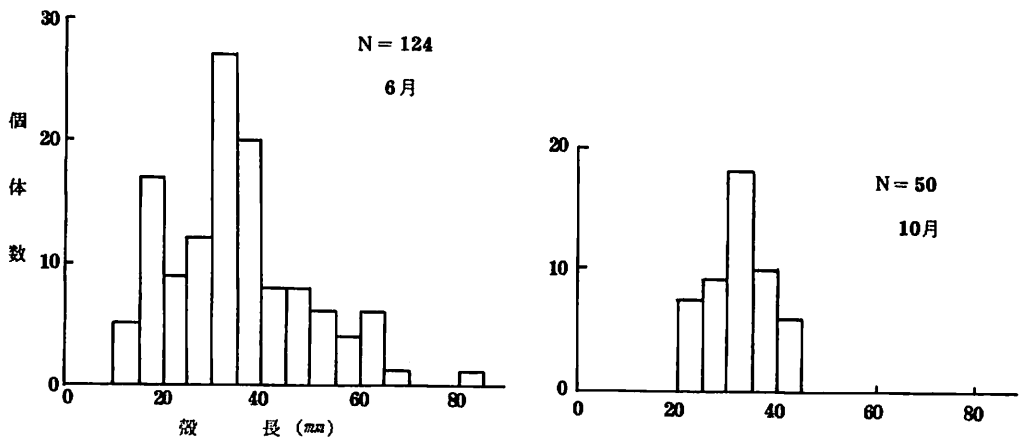


図2 コタマガイの殻長組成